

政策コメンテーター報告(第1回)(意見照会期間:2017年4月10日~4月19日):柳川 範之 東京大学大学院経済学研究科教授

質問事項		記述式回答
個人消費の動向		
1	個人消費の動向をどうご覧になっていますか。また、そのような動向となっている要因やメカニズムについて、お考えをご教示ください。	賃金・所得水準の伸びと比べると、やはり消費の伸びは力強さを欠く。この点は、各時点での消費は、その時点の賃金や所得水準だけでは決まらず、将来の所得水準の予想にも左右されるというライフサイクル仮説的メカニズムが作用しているものと思われる。将来の景気動向などについての人々の予想がまだ楽観的でない点が影響しているのではないかと。
消費の活性化		
2	消費を活性化するためには、どうしたらよいとお考えでしょうか。	上記のように、将来不安が消費支出の拡大を鈍らせているのだとすれば、将来動向について、より明るい見通しができるような情報提供および、それを実現可能にするような政策パッケージの提示が必要と思われる。
プレミアムフライデー		
3	効果	効果についての定量的な情報はもっていない。すべての企業が実施できたわけではないと思われるが、実施できて早く退社できた社員については、消費を拡大させるような行動が比較的とられていたのではないかと。
	早帰りを促すための工夫	
	本取組を消費拡大につなげるための工夫	消費拡大につなげていくためには、プレミアムフライデーに合わせて、消費を喚起させるようなイベントを開催していくなどの工夫が考えられるだろう。これは政府が直接行う必要があるわけではなく、民間側の創意工夫によって、消費をしたくなるようなイベントや情報提供を積極的に行うことによって、萎縮している消費マインドを少しでもほくしていく取り組みが必要と思われる。
	本取組を続けていくための工夫	
	その他	